

「差別」と「平等」 みんな笑顔に

小学校六年

私は、挨拶をよくする。挨拶のよさは全部で三つある。一つ目は、自然と笑顔が増えること。二つ目は、相手からの印象がよくなり人間関係もよくなること。三つ目はいつからでも挨拶なら始められることだ。また、国際化が進む中、日本を訪れたり、日本で暮らしたりする外国人の数も年々増加し、様々な場所で外国人と出会う機会が増えている。登下校中に外国人のお遍路さんに挨拶をすることも増えてきた。日本人にかかわらず、挨拶ならできることが良いと思った。一方で、言葉や生活の仕方、文化の違いから、仕事場や学校などの日常生活の中でトラブルも起こっている。でも、みんな同じ町にいるご近所さんだ。

私は、学校で「部落差別」について勉強した。いられない差別を受けてきた地域の出身であることなどを理由に、結婚を反対されたり、就職や日常生活を送る上で差別されたりすることだった。学校で人権についての学習をしていることによって、部落差

別に関する正しい認識や理解が進んできているが、今もなお、差別は残っている。私たちは、生まれてくるときに家や場所を選ぶことはできない。なのに、生まれた場所や住んでいる場所を理由に、差別をするのはおかしいと思った。

そして、世の中には様々な情報があふれている。特にインターネット上では、たくさん情報を見ることができるが、そこには正しいものもあれば、間違っているものもある。

部落差別を無くすためには、世の中にあふれているたくさん情報の中から、正しいものを見抜き、正しく理解することが大切だ。私たち一人ひとりが自分自身の問題として考え、行動していこう。その第一歩として、まずは今日の前にいる相手のことを知ることが大切だ。だから私は、まずどんな人にも挨拶をして、笑顔になって、みんなともっと仲良くなりしたいと思っている。